

新ひだか町立病院コラム Vol. 41

実践!! 口腔ケアと食事介助

院長のつぶやき

1年前に当院へお越しいただき、摂食嚥下機能についての勉強会の講師を務めていただいた【摂食・嚥下障害看護 認定看護師 打越 ともこさん】が今回も「実践!! 口腔ケアと食事介助」と題して講義を行ってくれました😊

安全で効果的な食事を提供するための基本技術として、「安定した姿勢のポイント」や「五感を活用した介助法」、「スプーンの方法」や「嚥下調整食の学習」まで、実際の看護現場で役立つ知識を学びました。

食事を嫌がる患者さんには、色々な理由があるとし、例えば「水分を最初に摂らせてもらえたら食べようと思う」「食べるメニューを選ばせてもらえたら食べようと思う」などしっかりとアセスメントする大切さの演習も行いました。

また食事後の口腔ケアとしても「清浄性と潤い」は感染予防に繋がる重要なことであり、1日1回口腔のチェックを行い、キレイで潤っている状態を評価することは、食事等の経口摂取を促し、低栄養や脱水を防ぐことにも繋がっていく一貫性も学びました。

院長の小松です。

我が国では高齢社会が加速的に進んでいますが、それにつれて要介護高齢者の数も増加してきています。

要介護状態では、口の中の清掃がおざなりにされやすくなり、その結果、誤嚥性肺炎や全身疾患にかかりやすくなります。

口腔ケアの目的は口の中を清潔にするだけでなく、歯や口の疾患を予防し、口腔の機能を維持することにあります。これにより QOL の向上や誤嚥性肺炎の予防、全身の健康状態の維持ならびに向上にも繋がります。

近年の研究で口腔内細菌と内科疾患（誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎、敗血症、虚血性心疾患等）との関連性、咀嚼の機能と老化・認知症との関連など、口腔内環境が高齢者の全身の健康と密接に関連していることが明らかになってきました。

要介護高齢者は、健康な人にとっては病原体とは言えないような細菌でも、日和見感染を起こし、誤嚥性肺炎などに陥ることがありますが、口腔ケアを行えば、これらの疾患を予防することがわかってきています。口腔ケアは歯や舌などの口腔内の機能を維持・向上させることで、咀嚼ならびに嚥下機能の維持・回復、感染症の予防だけではなく、味覚を保ち食欲を増進する、全身状態や QOL の向上、コミュニケーション機能の回復等が期待できます。

当院では、このような口腔ケアだけではなく、嚥下調整食でも食事の形態を工夫し、入院患者さん達にも食事を楽しんで頂けるようにしています。

口の中はいつも清潔に、食事は良く噛んでしっかりと飲み込むようにしましょう。



安定した姿勢での食事介助はとても重要

実際に嚥下調整食を食してみよう。



令和6年7月10日(水)
新ひだか町立病院公式 WEB サイト
リニューアルいたしました。
<https://www.shinhidaka-hospital.jp/>



作成: 新ひだか町立病院

❁ 町立静内病院 0146-42-0181 (代表)

新ひだか町静内緑町4丁目5番1号

❁ 三石国保病院 0146-33-2231 (代表)

新ひだか町三石本町214番地